



最高の「おもてなし」は笑顔

今年も9月23日(秋分の日)に「鮎鯨街道ウォーク」が行われます。江戸時代の献上鮎鯨を運ぶ行列を再現した鮎鯨街道ウォークは、今年で6回目を迎えます。お奴行列と並んで、笠松町の新しい名物行事の1つになりました。昨年の鮎鯨街道ウォークには約1,200人の参加者があり、今年も多くの方が笠松町内を歩くことでしょう。

「道徳のまち笠松」では、今年も笠松町内で精一杯の「おもてなし」をしたいと考えています。福祉会館駐車場にテントを張り、冷たい飲み物や甘いキャンデーなどで接待したり、笠松町の有志の方が製作した人形や竹細工などを展示したりして、歩き疲れた体と心をいやしていただくよう計画しています。また、笠松町の紹介パネルの展示もします。これらの「おもてなし」には、どなたでも参加できます。ご自分の大切な作品を展示してもよいという方は、中央公民館までご連絡ください。

接待や作品の出品ができない方は、「笑顔」での「おもてなし」をお願いします。鮎鯨街道ウォーク

の参加者を、町民の方が笑顔で迎えていただくことが、最高の「おもてなし」です。その時のために、今から東京オリンピックの招致活動の時の委員の方に負けない笑顔をご準備ください。



冷たいお茶で参加者をもてなす「道徳のまち笠松」のメンバー

今年の「鮎鯨街道ウォーク」の案内は、15ページをご覧ください。

身近で「ちよっいい話」がありましたら、中央公民館へ電話、FAX、郵送、メールなどでご連絡ください。お待ちしております。

☎388-3926 FAX388-3233

メールアドレス:kyouikubunka@town.kasamatsu.lg.jp

かきまつの民話「昔むかし」

田代の龍④

この話は、まわりの村々へも広がっていった。みんなは、「ありがたいことじゃ」と喜んだ。

ところが、この話をからつきし信じない男がいた。その男の名は勝造といった。勝造は、村人のやることにいつも反対ばかりしていた。そのため、みんなからきられていた。

「そんな龍がいるわけがない。おまえたちは、弥助にだまされているんじゃない。」と、村中の者に言いふらして歩いた。しかし、「ばかなことを言うもんじやねえ。」

と、だれも相手にしなかった。それで、勝造は、いつもプリプリとおこっておった。

ある月のさえた晩。

「龍が本当に住んでるか、このおれがたしかめてやる。」と、ひとりごとを言いなが

ら、大きなおのを持って、お宮さまへやってきた。そして、おばけ松のところまで来ると、コッーン、コッーンと根もとを切り始めた。その音はあたりにはびびいたが、だれも気づかなかつた。松は大きくても中は空っぽであった。少しかたむいたかと思うと、ドドド、ドーンと、地ひびきをたてて倒れかかった。

そのとき、松の大穴から、ランランとかがやく金色の目、耳までさけた口、するどいきばをはやした龍が、勝造をにらみつけた。

勝造は、目を大きく見開いたまま、地面に足がすいつけられたように、その場につっ立っていた。冷たいしずくが、背中をひとつぶふたつと流れ落ちた。

(つづく)